

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人社団みどりの会酒井病院	代表者	長谷川 麻衣子	法人・事業所の特徴	利用者様・ご家族様に最大限活用して頂けるよう、時間延長サービス等を柔軟に受け入れ、医療法人が運営していることから、医療必要度や介護度の高い利用者様の受け入れも実施している。また、通いサービスにおいて、利用者様と職員が様々な行事を通して関わりを多く持つことで、馴染みの関係を築くことを目的に全体で取り組んでいる。
事業所名	小規模多機能ホームさかい	管理者	矢野 康行		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	2人	0人	1人	1人	0人	14人	2人	20人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	申し送りと部署会議を行うことで利用者の情報やニーズを共有し、共通認識を持つことで統一感のあるケアを実施する。	1日3回の申し送りで状況や情報の共有が出来ており、連絡ノート等でも情報の共有をしている。利用中の方の追加情報や変更についての情報共有が遅くなる事や、職員間での把握の違いがある。	事業所内の事は目にすることが無いので、評価シートでの確認になるが、自己評価が高いので頑張っていることが分かった。	引き続き、申し送りと部署会議を行うことで利用者の情報やニーズを共有し、リーダー業務を行う職員を限定する事で統一感のあるケアを実施する。
B. 事業所のしつらえ・環境	小規模多機能の機能訓練室に陰圧装置を設置。引き続き、感染予防対策を行い、安心して利用できる環境をつくっていく。	事業所でコロナウイルスとインフルエンザの感染拡大があった。運営推進会議の開催でしか事業所に来て頂けなかった。毎日の清掃で消毒、整理・整頓に努めることができていた。	推進会議でしか訪問がなかったが、清掃されており、環境は開かれたものとなっている。やはり、事業所が入り込んだところがあるので知らない人には分からない。	引き続き、感染予防対策を行い、安心して利用できる環境をつくっていく。事業所内に利用者様の作品を飾る等の環境作りに取り組んでいく。
C. 事業所と地域のかかわり	職員と地域の方との関わりを持てるように、講演会や地域イベントに参加し地域の方との交流ができる環境を作っていく。	今年度も、集合イベントの開催が困難な為、事業所での地域交流の機会がほとんどなかった。近隣開催の地域イベントには参加できている。	地域の交流会のイベントに参加する事で、事業所内のみでなく近隣住民の方との交流の場を確保できている。今後夏祭りや餅つき等のイベントが再開できればよい。	職員と地域の方との関わりを持てるように、講演会や地域イベントに参加し地域の方との交流ができる環境を作っていく。外出レクなどを計画し、少人数での関わりを検討する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者が事業所から出ていき講演会や地域イベントに参加することで、地域の方との関わりが持てるように、参加の機会を検討していく。	感染症の流行の為、積極的に地域のイベントに参加はできなかった。地域のカフェには感染対策をしながら参加できた。また、フルーツガーデンで行ったイベントには参加することができた。	コロナで中止となっていたイベントが少しずつ再開している。地域イベントに参加して頂きたい。	感染状況を見ながら地域行事の参加、散歩やドライブでも地域に出向く機会を増やす。

E. 運営推進会議を活かした取組み	地域と情報交換を行うなかで、職員・利用者がどのように地域との関わりができるか共に考えていく。	コロナの影響により、2回程運営推進会議を延期した。コロナ禍での事業所、地域での取組みを共有できた。	地域でのイベント開催の情報共有をし、参加出来そうなイベントの検討も出来た。また参加時の場所やタイミングも調整できた。	運営推進会議で出た意見を事業所会議の議題として取り上げ改善に努める。
F. 事業所の防災・災害対策	年に2回の防災訓練を通して、日頃から災害対策への認識を高めしておく。また近隣住民との相互連携についても検討していく。	夜間の火災を予測した訓練を利用者様も参加し実施することできている。職員が一人に対応する事を考えて、行動を考えることができた。	今年度は地域でも防災研修や集合しての訓練の開催が難しかったので、最低人員での実施となった。	今後、火災訓練に加え、地震災害などの訓練を合わせて行い、すべての職員が意識でき、有事の際の行動を理解する。